

## 研究課題名

大腸がんリスクマーカーGTA-446 と便潜血検査を組み合わせた新しい大腸がん地域検診の試み

【研究概要】本研究は、ちば県民保健予防財団、千葉大学、横芝光町立東陽病院の共同研究であり、ちば県民保健予防財団倫理委員会の承認後、理事長の許可を得て実施しており、研究期間は平成31年3月末までです。大腸がんは日本では罹患者が第1位のがんですが、早期発見により90%以上が完治します。早期発見のためにはがん検診を受け、精密検査が必要となったら医療機関で確認することが大切です。しかし、大腸がん検診は便を採取するだけという非常に簡便な検査ですが、検査を受けない人が多いこと、また精密検査が必要となっても受診しない人が多いことが課題となっています。GTA-446は血清メタボローム解析により検出された長鎖多価不飽和脂肪酸の1つで、この検査値が低いと大腸がんの発症が多いという関係が分かり、大腸がんのリスクマーカーとして注目されています。そこで、本研究は、地域のがん検診の受診率や精検受診率の向上や、大腸がんの発見率の向上のために、大腸がんのリスク（大腸がんになりやすいかどうかの体質）と大腸がん検査（便潜血反応検査）を組み合わせた方法の有用性を検討するために実施します。

本研究は、以下の方のうち、研究に文書による同意をいただいた方が対象です。

平成29年度：町の特健康診査または後期高齢者健康診査（特定健診等）を受診し、町の大腸がん検査を受診する方または、特定健診等は受診せず町の大腸がん検査を受診し、精密検査を町立病院で実施した方

### 【研究に関する個人情報の取り扱いについて】

1. 研究対象者の血液や情報・データは、本研究と関係のない当財団の個人情報管理者が分析する前に氏名・住所・生年月日などの個人情報を削り、代わりに新しく符号をつけ、どなたのものかわからないようにします（匿名化といいます）。新しい符号と個人情報の対応表は個人情報管理者が厳重に保管します。
2. 解析に使うデータセットは、ID、パスワードでログインが管理されインターネットに接続しないパソコンに保管して使用し、研究終了から5年後にパソコンから削除します。
3. GTA-446の測定は千葉大学からカナダの Prodrome Sciences 社に送付され、同社にて測定を行います。その際には匿名化された検体以外は送付されません。
4. 測定が終了した検体は、すみやかに誰のものかわからない状態のまま廃棄します。また、研究に使用した書類は、研究終了後5年間保管し、その後は裁断又は溶解により処分します。
5. 研究の成果は、研究対象者の氏名など個人情報が明らかにならないようにした上で、学会発表や学術雑誌等で公表します。

【その他】本研究に関する費用は、千葉大学に所属する共同研究者に交付された当財団の調査研究事業助成金で実施しますが、各研究者と財団の間には利益相反はありません。

研究に関してご意見、ご質問などがございましたら、下記までご連絡ください。

【研究責任者】公益財団法人ちば県民保健予防財団調査研究部 柳堀朗子・野村文夫